

デジタル・シティズンシップ教育としての YouTubeの批判的読解

キム, ヒョンジュ / イ, ジヒョン / ユ, ギョンヘ / パク,
ハンナ

(出版者 / Publisher)

法政大学図書館司書課程

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

The Journal of Media and Information Literacy / メディア情報リテラシー研究

(巻 / Volume)

3

(号 / Number)

2

(開始ページ / Start Page)

19

(終了ページ / End Page)

29

(発行年 / Year)

2022-03

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00026044>

法政大学図書館司書課程

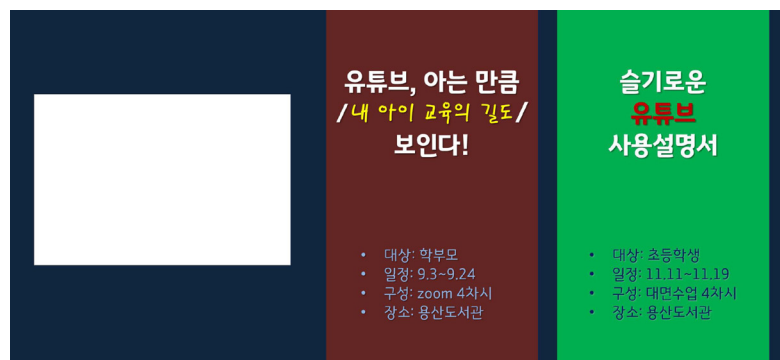
メディア情報リテラシー研究 第3巻2号、019-029

特集 インクルーシブなメディア教育とデジタル・シティズンシップ
(第2回韓日メディア情報リテラシーフォーラム)

デジタル・シティズンシップ教育としての YouTubeの批判的読解

キム・ヒョンジュ パク・ハンナ イ・ジヒョン ユ・ギョンヘ

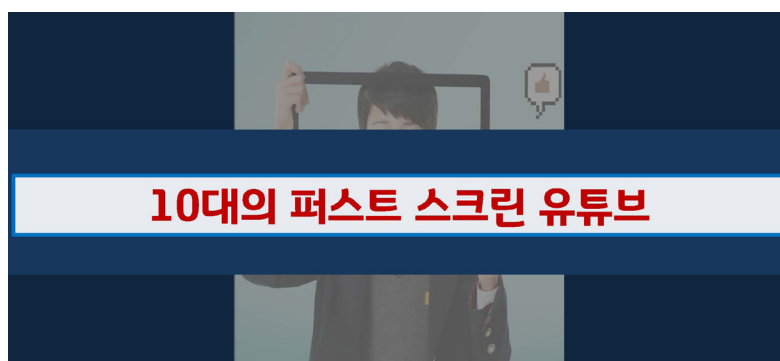
皆様こんにちは。デジタル市民性教育のため、批判的ユーチューブ・リーディングをテーマに、親と小学生の子どもを対象として、2020年9月と11月にそれぞれ実施された教育事例を発表いたします。この教育はキム・ヒョンジュ、パク・ハンナ、イ・ジヒョンと私ユ・ギョンヘの4人が一緒に企画いたしました。



私たち4人は、視聴者メディア財団ソウルセンターで、2019年からメディアリテラシー勉強会を行ってきたメディア講師です。



10代にとってユーチューブは、ソーシャルメディアを超えるファーストスクリーンであり、ユーチューブを通じて世間とつながっています。



保護者から教育現場に対する質問の中でよく聞かれるのは、子どもにスマホはいつから持たせるべきかという質問です。二番目に多いのは、「ユーチューブとゲームは、1日何時間まで許容できるか」という質問です。

親は子どもがユーチューブで好ましくないコンテンツに接するのではないかと心配しています。一方で子どもたちは、勉強のストレスも解消でき、さらに学べることも多いユーチューブなのに、どうして大人は反対しているのか不満が多いようです。

当センターでは、メディア教育スタディーを通して、最近関心が高まっているファクトチェック教育、そして映像制作教育と共に批判的ユーチューブ・リーディング教育が必要だと考えました。特に、ユーチューブの制作教育に先立って、批判的なリーディング教育の必要性を感じましたので、ユーチューブ・リテラシー教育プログラムを企画しました。



ユーチューブ・リテラシー構成方法

当センターでは、ユーチューブを誕生させたメディア環境の変化から、ユーチューブの歴史と特徴、ユーチューブの魅力、アルゴリズム、問題点、ユーチューブの独自対応方法、ユーチューブ関連産業と収益構造、ユーチューブ活用法、デジタル市民性までのユーチューブをテーマにした書籍、論文などの関連文書を全て整理しました。

유튜브 리터러시 어떻게 구성되어 있나?

All That Youtube



そして、2時間ずつ 12回の教育プログラムを構成しました。ユーチューバーになってチャンネルを作り、映像を制作する前に行う教育であると想定して、ユーチューブに全てを盛り込んでみました。

1 2시간*12차시 프로그램

- 1강, 미디어환경의 이해
- 2강, 유튜브 역사 특징
- 3강, 유튜브 역사 특징
- 4강, 유튜브 알고리즘
- 5강, 유튜브 알고리즘
- 6강, 유튜브 알고리즘
- 7강, 유튜브 알고리즘
- 8강, 유튜브 알고리즘
- 9강, 유튜브 알고리즘
- 10강, 유튜브 알고리즘
- 11강, 유튜브 알고리즘
- 12강, 유튜브 알고리즘

1. 현재 미디어 환경 & 생태계 이해
2. 유튜브 역사와 특징 - 누구나 콘텐츠 생산, 레거시 미디어와 비교, 유튜브 방송의 구성
3. 다양한 콘텐츠 - 유튜브 유저의 하루, 내가 원하는 내 취향 콘텐츠 찾기
4. 유튜브 알고리즘 - 필터버블
5. 콘텐츠 비판적 읽기 - 방대한 양 -> 사전 심의 및 모니터링 어려움
6. 유튜브 자체적 대응과 필터링 : 논란 막기
7. 초보 유튜버 실수 모음기 1 : 개인 - 초상권, 저작권, 채널 관리
8. 초보 유튜버 실수 모음기 2 : 시스템 - 수익구조
9. 유튜브 활용1(유저) : 인기 영상 트렌드, 분야 별 추천 콘텐츠, 채널 소개
10. 유튜브 활용2(크리에이터) : 기획 요소
11. 디지털 시민성 : 소비자로서 미디어 윤리, 디지털 세상의 소통과 참여
12. 나의 유튜브 여행기 - 수업 전후 변화, 수업 후기, 추천 채널과 콘텐츠

その後、ソウル視聴者メディアセンターから支援を受けて実行できるようになり、12回の教育案を8回に圧縮しました。それらの教育目標は以下のとおりです。

「マスメディアのテレビとユーチューブの差を理解した上で、ユーチューブコンテンツを批判的に受け入れ、正しく利用する方法を身につける。」「ユーチューブプラットフォームに対する理解をもとに個人に適用可能な情報を確認し、学習方法・余暇時間の活用・進路・文化の享受など、実生活で有効に活用できる。」「ユーチューブコンテンツの制作と管理、チャンネル運営に必要な基礎知識を身につけて、自分のチャンネルを企画し、それに合ったコンテンツの制作計画書を作成することができる。」

2 2시간*8차시 프로그램

교육목표

- 대중매체인 TV와 유튜브의 차이를 알고 유튜브 콘텐츠를 비판적으로 수용하고 올바르게 이용하는 방법을 터득한다.
- 유튜브 플랫폼에 대한 이해를 바탕으로 개인에게 적용 가능한 정보를 확인하고, 학습, 여가, 진로, 문화 향유 등 실생활에서 유용하게 활용할 수 있다.
- 유튜브 콘텐츠 제작과 관리, 채널 운영에 필요한 기초지식을 얻어 자신의 채널을 기획하고 그에 맞는 콘텐츠의 제작계획서를 작성할 수 있다.

教育目標に合わせて、ユーチューブ・プラットフォームに対する理解と、コンテンツの批判的リーディング、チャンネル運営のための企画書作成をしました。デジタル市民としての倫理をはじめとする必須な能力に対する概念を整理できるように教育を構成しました。

2 2시간*8차시 프로그램



教育現場でユーチューブ・リテラシーを運営した結果

교육 현장에서 유튜브 리터러시 운영한 결과

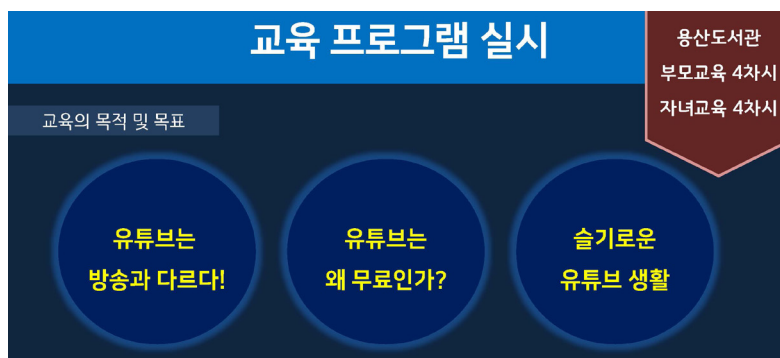
ソウル龍山図書館で、ユーチューブ・リテラシー教育を実際運営しましたが、龍山図書館側では8回の教育を保護者教育と子どもの教育をそれぞれ4回ずつに分けてしてほしいとのニーズがありました。

ちょうど媒介者教育に関心を持っていた当センターでは、再度ユーチューブ・リテラシー教育を親と子どもの学習者を対象として再整理しました。

教育プログラムは4回に設定し、以下のように目標を決めました。

「ユーチューブは放送とは異なるため、放送では見られない多様なコンテンツがあり、また放送と違って審議や規制がないため問題が発生する。」「ユーチューブはコンテンツをユーザーに販売するのではなく、私達のような利用者を広告主に販売している、そのため、ユーザーが少しでも長居させることを目的にアルゴリズムを開発したこと、このようなユーチューブ・プラットフォームに対する理解を基に実生活で学習、余暇、進路、文化享受などに上手く活用する方法を考えてみること。」

この3つを目標に定めました。



まず、親を対象に行うプログラムの教育内容について申し上げます。親の教育は、「ユーチューブを知らないと、自分の子どもの教育方法も見えない」というタイトルで、リアルタイムで双方向オンライン教育で行いました。Zoom を使いました。

1 回目は、デジタルメディア環境の変化とデジタル社会の特徴について話し合いました。

2 回目は、ユーチューブの問題点とその原因、そしてユーチューブ・コンテンツの批判的リーディングの重要性について講義を行いました。

3 回目では、ユーチューブ・アルゴリズムについて、その目的と利便さによる落とし穴について話し合いました。

最後の4 回目では、デジタル社会市民として必要なものはなにか、デジタル市民の賢明なメディア利用法について話し合いました。

교육 프로그램 실시		
교육의 목적 및 목표		
유튜브는 방송과 다르다! 유튜브는 왜 무료인가? 슬기로운 유튜브 생활		
용산도서관 부모교육 4차시 자녀교육 4차시		
강의일	강의주제	강의내용
2020년 9/3(목) 10:00-12:00	미디어 환경의 이해: 갓튜브가 된 유튜브	- 대중매체와 디지털 미디어 등장 - 디지털 사회의 특징 - 갓튜브가 된 유튜브 - 엄마가 낳고 유튜브가 키운다?
유튜브, 아는 만큼 / 내 아이 교육의 길도 / 보인다! • 대상: 학부모 • 일정: 9.3~9.24 • 구성: zoom 4차시 • 장소: 용산도서관		

**유튜브, 아는 만큼
/내 아이 교육의 길도/
보인다!**

- 대상: 학부모
- 일정: 9.3~9.24
- 구성: zoom 4차시
- 장소: 용산도서관

강의일	강의주제	강의내용
2020년 9/10(목) 10:00-12:00	유튜브 해부1: 유튜브의 문제점과 비판적 읽기	- 유튜브의 문제점과 원인 - 유튜브 자체 대응과 국가별 차이 - 유튜브 콘텐츠 비판적 읽기의 중요성 - 당신의 선택은? 법적규제vs자율규제 - 유튜브 중독 탈출작전: 디지털 웰빙

**유튜브, 아는 만큼
/내 아이 교육의 길도/
보인다!**

- 대상: 학부모
- 일정: 9.3~9.24
- 구성: zoom 4차시
- 장소: 용산도서관

강의일	강의주제	강의내용
2020년 9/17(목) 10:00-12:00	유튜브 해부2: 알고리즘의 이해	- 알고리즘이란 무엇인가? - 데이터와 필터링, 유튜브 알고리즘 - 알고리즘 체험: 유튜브 영상 추천하기 - 유튜브 알고리즘의 목적 - 알고리즘의 편리성과 함정

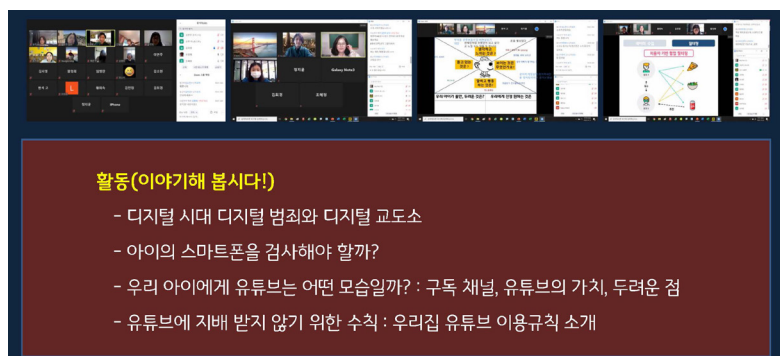
**유튜브, 아는 만큼
/내 아이 교육의 길도/
보인다!**

- 대상: 학부모
- 일정: 9.3~9.24
- 구성: zoom 4차시
- 장소: 용산도서관

강의일	강의주제	강의내용
2020년 9/24(목) 10:00-12:00	유튜브와 디지털 시민성	- 초연결사회, 디지털 문화와 문제인식 - 디지털 시민성, 우리 아이 어떻게 키우나? - 디지털 시민으로서 갖추어야 할 5가지 - 디지털 시민의 현명한 미디어 이용법 - 유튜브의 바다, 우리 가족의 좌표는?

非対面プログラムの長所を活かして、チャットとコメント機能を使って授業への参加を誘導し、大人なので活動紙を作成する方法ではなく、主題討議形式で活動しました。討議のテーマは以下の通りです。2020年9月に代表的な社会問題であった、「デジタル犯罪とデジタル刑務所について」、そして「子どものスマートフォンを検査するべきか、子どもが見ているユーチューブは何なのか」、「親が心配していることは何か」、最後に「各家庭で決めたユーチューブ利用規則を紹介する」活動を行いました。

11月に行った小学生の4回目の講義は対面で行いました。教育回数別のテーマと内容は親の教育とほぼ同じですが、小学生という学習者の特性に合わせて、伝達方法と活動を準備しました。1回目では、「ユーチューブは全てを盛り込んでいる」というテーマで、ユーチューブの魅力と自分のユーチューブの利用記録を観察する授業を行いました。



2回目では、「大人たちがユーチューブ視聴を制限する理由はなにか」というタイトルでユーチューブの問題点と批判的リーディングについて話し合いました。1回目は良いコンテンツの基準について話し合いましたが、2回目は悪いコンテンツの基準と、その悪いコンテンツを作るユーチューバーの意図について考えてみました。

3回目は、「ユーチューブはユーザーが好む映像について、どういう方法で把握するのだろうか?」というタイトルでアルゴリズムについて教え、アルゴリズムに及ぼす影響について考えてみました。

最後の4回目は、「健全なユーチューブ旅行」というタイトルで、オンライン上の自分と、オフラインの自分を比較し、自分のデジタルの足跡をはじめ、賢明なデジタル市民としての常識と規則についてまとめてみました。

**슬기로운
유튜브
사용설명서**

- 대상: 초등학생
- 일정: 11.11~11.19
- 구성: 대면수업 4차시
- 장소: 용산도서관

강의일	강의주제	강의내용
2020년 11/11(수) 16:00-18:00	유튜브는 모든 것을 담고 있다?! - 유튜브가 세계를 사로잡은 비결	- 유튜브의 시작과 현재 - 나의 유튜브 생활시간표 - 유튜브가 갓튜브가 된 이유 - 추천 유튜브 & 채널

**슬기로운
유튜브
사용설명서**

- 대상: 초등학생
- 일정: 11.11~11.19
- 구성: 대면수업 4차시
- 장소: 용산도서관

강의일	강의주제	강의내용
2020년 11/12(목) 16:00-18:00	어른들은 왜 유튜브를 마음껏 보지 못하게 할까? - 유튜브의 문제점과 비판적 읽기	- 내가 경험한 유튜브의 문제 - 유튜브의 문제점 - 유튜브 콘텐츠 비판적 읽기의 중요성 - 토론: 10대 유튜브 이용제한 찬반 - 비추천 유튜브 & 채널

**슬기로운
유튜브
사용설명서**

- 대상: 초등학생
- 일정: 11.11~11.19
- 구성: 대면수업 4차시
- 장소: 용산도서관

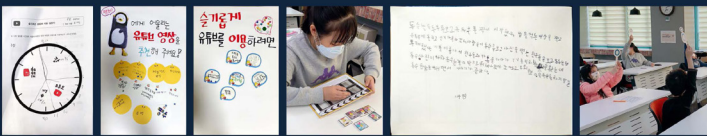
강의일	강의주제	강의내용
2020년 11/18(수) 16:00-18:00	유튜브는 내가 좋아하는 영상을 어떻게 알고 있지? - 유튜브 알고리즘	- 유튜브 홈화면 & 검색 콘텐츠 목록 비교 - 알고리즘이란? - 캐릭터에 맞는 유튜브 영상 추천하기 - 알고리즘 나에게 어떤 영향을 줄까? - 알고리즘과 수익의 관계 - 유튜브 이용 및 검색 기록 관리하기

**슬기로운
유튜브
사용설명서**

- 대상: 초등학생
- 일정: 11.11~11.19
- 구성: 대면수업 4차시
- 장소: 용산도서관

강의일	강의주제	강의내용
2020년 11/19(목) 16:00-18:00	건강한 유튜브 여행 - 디지털 시민성과 책임있는 유튜브 이용	- 온라인의 나 vs 오프라인의 나 - 디지털 발자국의 의미와 영향력 - 슬기로운 초등시민을 위한 디지털 상식 - 슬기로운 유튜브 이용 규칙 정하기 - 창의적이고 행복한 채널 기획하기

学習者が小学生であり、教育環境が対面授業だったので、様々な活動シーンとツールを用意して行いました。ユーチューブの利用習慣を把握するため、ユーチューブ生活のタイムテーブルを書いてみたり、生活タイムテーブルを見ながらメディアの利用習慣を把握してみました。良いコンテンツの条件について自分の考えを書いてみたり、ステッカーで投票する活動もやりました。映像の特徴を理解するためにコンテンツを分析する活動と、メディアの特性を教育するための「〇×クイズ」などの活動も行いました。アルゴリズムを理解するために、人気キャラクターのペン스에ユーチューブの映像をおすすめする活動では、子どもたちはとても喜びました。



활동

- 나의 유튜브 생활 시간표 : 유튜브 이용 습관 점검
- 좋은 유튜브 콘텐츠의 조건 : 포스트잇에 적어 붙이고 스티커로 투표하기
- 유튜브 콘텐츠 분석하기 : 영상 스토리텔링의 이해
- OX 퀴즈 : 유튜브와 미디어, 그것이 알고 싶다!

교육을 마치고

当センターがまとめた教育の成果について申し上げます。まず、学習者の成果としては、子どもの育児ヘルパー程度に考えられていたユーチューブの実態について理解し、メディアコンテンツに対する批判的能力とプロシューマー（生産者であり、消費者である人）としてのメディア倫理を身につけることができました。また、子どものメディア利用に対する指導方法をはじめ、親子間の相互理解度も高まりました。

교육 성과: 학습자 성과

- 자녀의 육아 도우미 → 유튜브 실체, 미디어 환경변화 이해
- 미디어 콘텐츠에 대한 비판적 역량 강화
- 자녀의 미디어 이용 지도 방법
- 소비자로서의 미디어 윤리 학습
- 디지털 미디어 긍정적 활용법
- 부모·자녀간의 상호이해도 향상

教授者側の成果は、ユーチューブ・リテラシー教育プログラムが開発できたこと、親子の各学習者の特性に合わせたプログラムとして再構成できたこと、そして対面・非対面方式の両方教育を実行したこと、最後に4人の協業によって教育内容の質的向上はもちろん、講師一人一人の能力が強化された点で成果と言えます。

교육 성과: 교수자 성과

- 유튜브 리터러시 12차시 개발
- 서울시청자미디어센터 강사지원사업 선정: 전문가 멘토링, 현장 적용 기회
- 부모와 자녀, 학습자 특성 고려한 맞춤형 프로그램으로 재구성
- 비대면/대면으로 유튜브 리터러시 교육을 다양한 방식으로 접근·실행함
- 4인의 협업으로 인한 교육내용의 질적 향상, 강사 개개인의 역량강화

最後に、本日の発表準備をしながら、私共4人はもう一度今回の教育経験を振り返ってみました。今回の教育経験を通じて得られたこと、見つけられたことを申し上げます。

同じ内容について、親と子どもを対象に教育を通して、親が子どもたちのメディア使用と、自分のメディア使用について異なる認識をしていることを発見しました。親たちは「私は批判的に適切にメディアを使うことはできるが、子どもたちはそうではない」と考えていましたが、子どもたちはむしろ自分より母親のほうがスマートフォン中毒になっていると話しました。つまり、大人のメディアリテラシーの力量を正確に理解できるようにすることが教育の出発点なのです。

교육을 마치고



부모
“나는 비판적으로 적절하게 미디어를 사용할 수 있지만 아이들은 그렇지 않다.”

자녀
“나보다 엄마가 더 스마트폰 중독이에요!”

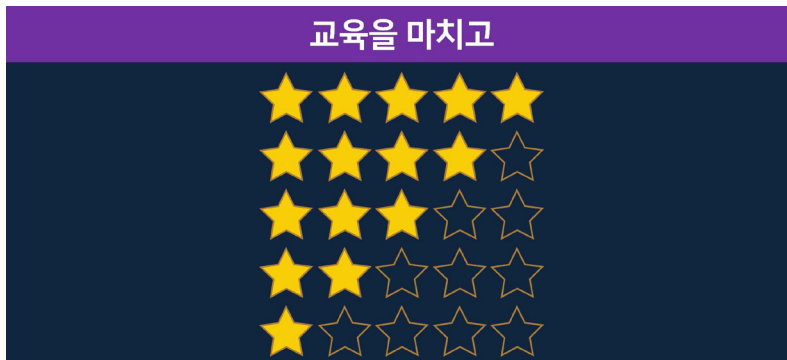
文字の読み書きができないことは、大きな問題だと思います。数字や計算ができないことも問題だと判断しますが、メディアを活用すること、メディア・コンテンツを正しく理解することの重要性については、その重要性を正確に認識できないまま、メディアをテレビやゲーム機の延長線のように考える傾向がありました。

교육을 마치고




国語と数学のような正規教科では学齢別に達成水準がありますが、メディアは個人が属する環境と関心度によって差がありました。私たちは、子どもから大人まで、学習者を分けて講義を準備しますが、教育現場では各個人によってレベルが異なることがあります。大人でも小学生の子どもよりメディア能力が足りない場合もあるし、子どもたちの家庭の雰囲気や経済的条件によってメディア活用能力が異なることもありました。このような点が大変であり、心配な要素でした。

最近の世の中は、1人1デバイスの時代、アルゴリズムの影響によって、家族や個々人がぜんぜん違う世界で生きているような感じです。ユーチューブの批判的リーディング・プログラムによって、互いに異なる世界で生活しているため、コミュニケーションできなかった親子がユーチューブをテーマに一緒に話し合うきっかけになることを期待します。私たちはデジタルによる断



絶ではなく、デジタルによって世代間に円満な利害関係が形成されることを期待します。この頃は世代間のコミュニケーションがなかなかできないと言われますが、一方では、シニアユーチューバーのミラノンとか、過去のコンテンツを盛り込んだタップゴル公園など、ユーチューブによって、むしろ違う世代を理解するきっかけにもなりました。ユーチューブの批判的リーディングやデジタル市民性教育は、世代間の葛藤だけでなく、お互いに異なる立場にいる人々の間に、相互理解と尊重することができる雰囲気作りに近づく契機になりました。



ご清聴ありがとうございました。